

# 風はPLCから

大学院に入学して早くも2月になりました。大学院は成果報告会に向けて動いています。慣れないことも多かった1年でしたが、現職院生と学卒院生（ストマス）、お互いに刺激し合いながら学びを重ねてきました。

第2号では、実習について紹介します。それぞれの実習で学んだことを院生に書いてもらいました。

前期を通して行ってきた高度化実践実習Ⅰ／特別支援教育開発実践実習Ⅰは、附属小・中学校／附属特別支援学校で、授業参観や授業を行う実習です。10月には重点領域実践実習Ⅰがありました。離島へき地教育に関する実習で、今年度は獅子島小中学校と奄美大島の戸口小学校、大勝小学校、龍南中学校で行われました。11月には重点領域実践実習Ⅱ／特別支援教育重点実践実習Ⅱが、附属特別支援学校／田上小学校特別支援学級で行われました。どの実習でも探究課題を設定し、現職院生・学部新卒院生がお互いに助け合って授業を行ったり学んだりしました。

## ～高度化実践実習Ⅰ～

◎附属中学校（現職4名、ストマス6名）

◎附属小学校（現職5名、ストマス4名）

附属小での高度化実践実習Ⅰにおいて、現職院生の私は、配属された学級で社会科授業を中心に参観したり、ストマスのメンターとして、検証授業に向けたアドバイスをしたりしました。ストマスは検証授業をしますが、現職も授業への参画は可能です。

院生になる前までは、公開研究会しか附属小学校の子どもや教師の姿を見ることがありませんでしたが、公開研究会以前の日常の姿を見ることができました。教科指導のあり方はもちろん、研究公開に向けた同僚教師との協力、教科部内での教科研究の話合いなど、「組織」「教師」という視点で見ることができたのが、最も大きな学びとなりました。また、附属小での学びを活かし、勤務校にて社会科授業の実践を行うこともできました。社会科授業を行う上で、同僚の先生はどんな悩みを抱えているのかインタビューしたり、その悩みに対して手立てを提案したりして、ともに社会科授業づくりを行いました。

このような学びの成果は、9月の実習成果報告会で、図1のようにまとめて発表しました。また、附属小での学びを原籍校で生かしたいと思います。（現職・男性）

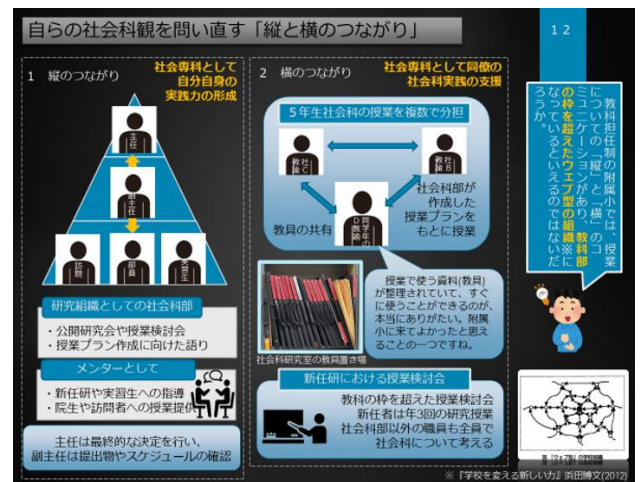


図1 プレゼンの例

## ～特別支援教育高度化実践実習Ⅰ～

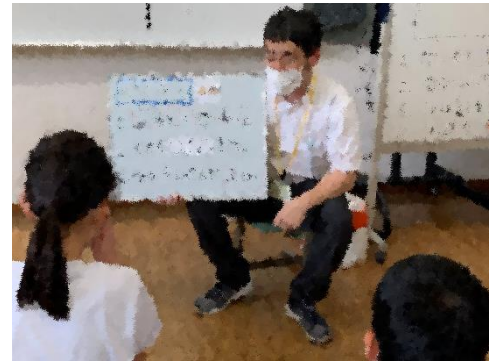
◎附属特別支援学校（現職1名）

特別支援教育高度化実践実習Ⅰでは、現職の院生一人が対象でした。院生同士で相談しながら実習に参加できない寂しさは感じつつも、“ひとりという贅沢な環境の下で実習に行かせていただいている”と、すぐにプラス思考で考えるようにしました(笑)。実習では私は主に2つの課題をもって臨みました。授業等に関する課題と組織的業務に関する課題です。組織的業務の課題として、「同僚性」と「授業研究」をテーマに考えました。

秋田(2006)の文献から、同僚性を高めるためには、「教育に対して共有のビジョンをもつ」「活動や語りの場を設定」などをすることが必要だということが分かりました。そのためには授業研究をすることが有効であるということを知りました。現任教では授業研究は初任者研修などで行われることが多く、日常的に行うこと

は時間が少なく、他の教師との日程調整も難しいのが現状です。実習先の附属特別支援学校では授業研究を四つの視点(同僚性、共有性、機能性、効率性)を大事にして行われており、実際に自分の行った授業研究もこの形式で行ったところ、「子どもを主語にして話げできた」、「校種が違っても活発に意見交換ができた」など、メリットを感じる事が多かったです。また、少人数、短時間でできる授業研究として、「授業ミーティング」を経験しました。子どもが授業中に見せていた学びの姿を分析し、共有し、改善策を考えることですぐに次の授業に活かすことができ、とても有用性を感じるものでした。

「教師は授業で勝負」というフレーズがあるように、授業をよりよくすることは必須のことであり、子どもを主語にして分析し、共有のビジョンをもつことで同僚性を育むことにも繋がると考えました。現任校で「授業ミーティング」を取り入れ、それによって同僚性を育むにはどうしたらよいか、新たな課題を見付けることができました。学びの多い、充実した実習となりました。(現職・男性)



### ～重点領域実践実習Ⅰ・特別支援教育重点領域実践実習Ⅰ～

◎戸口小学校(現職1名、ストマス2名) ◎大勝小学校(現職2名、ストマス1名) ◎龍南中学校(現職3名、ストマス1名)

◎獅子島小中学校(現職4名、ストマス6名)

重点領域実践実習Ⅰは、離島へき地教育について特に探究したい課題を設定し、授業実践を行うという実習でした。院生全員が奄美大島と獅子島に分かれての、期間としては1週間の実習でした。普段の実習とは異なる学校や景色といった高揚感もありつつ、実習に臨みました。

授業に関しては、少人数教育の工夫や複式学級での指導法を実践しました。40人学級の指導とは異なった授業を展開することができる楽しさと難しさを実感しました。院生相互に参観することもあり、自分の授業に活かしたり授業研究をしたりしました。また、実習校の授業を参観する時間もあり、先生方の日々の工夫や生徒の様子を観察することができました。



獅子島小中学校は、幼小中の施設が一体となった学校だったので、幼稚園の様子を垣間見たり小中それぞれの授業を参観したりし、現籍校や志望校種とは異なった刺激や学びがありました。また、幼小中一貫の取り組みや連携など組織的な部分についても学ぶことができました。地域や学校の特色を生かした、「島立ち」に向けてのカリキュラムが展開されていました。(ストマス・女性)

### ～重点領域実践実習Ⅱ・特別支援教育重点領域実践実習Ⅱ～

◎附属特別支援学校(現職9名、ストマス10名) ◎田上小学校(現職1名)

重点領域実践実習Ⅱは、特別支援教育について学び、実践していく実習です。特別支援教育プログラムの院生は田上小学校の特別支援学級で実習を行いました。期間は1週間の実習です。現職とストマスがペアになって授業実践をしました。

全く特別支援学校での教育実践に携わったことがなく不安もありましたが、実習中に生徒の特性や実態など、指導する際の留意点を共有したうえで生徒とかかわることができたこと、生徒や先生方と一緒に過ごすうちに接し方に気づくことができたことなどにより、不安も徐々に晴れ、学びの多い実習になりました。授業実践に関しては、附属特別支援学校は授業ミーティングを行っており、生徒が学習につまずいていた点や良かった点、それらをふまえて次回の授業をどうするかをチーフ・ティーチャー(CT)とサブ・ティーチャー(ST)で話し合うことができるので、実態を把握し生徒一人一人に応じた指導につなげられるというサイクルを学べました。(ストマス・女性)

